

読響アンサンブル・シリーズ

Yomikyo Ensemble Series

第41回

《鈴木優人プロデュース／2つのチェンバロ協奏曲とG.トラークルの詩による3つの作品》

No. 41 “Two Harpsichord Concertos and Three Songs on Poems by G. Trakl” produced by Masato Suzuki

2024年 3月 8日(金) 19時30分 開演(19時からプレ・トーク)

Friday, 8th March, 19:30 (Pre-concert Talk from 19:00)

トッパンホール

Toppan Hall

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

J. S. バッハ:チェンバロ協奏曲 へ短調 BWV1056 (約10分)

J. S. BACH: Harpsichord Concerto in F minor BWV1056

I. Allegro moderato II. Largo III. Presto

[鈴木、戸原、對馬、森口、唐沢、瀬]

ウェーベルン:6つの歌 作品14 (約8分)

WEBERN: 6 Songs op. 14

I. 太陽 II. 西洋1 III. 西洋2 IV. 西洋3 V. 夜に VI. 捕えられた黒歌鳥の歌

[鈴木、松井、戸原、唐沢、金子平、芳賀]

ヘンツェ:「アポロとヒュアキントス」(約18分)

HENZE: Apollo et Hyazinthus

[鈴木、藤木、戸原、對馬、森口、唐沢、佐藤、芳賀、井上、日橋]

休憩 Intermission

鈴木優人:「浄められし秋」(約5分)

MASATO SUZUKI: Verklärter Herbst

[鈴木、松井、戸原、寺井、赤池、太田、對馬、森口、正田、唐沢、林、瀬、金子泰]

フィリップ・グラス:チェンバロ協奏曲 (約24分)

Ph. GLASS: Harpsichord Concerto

I. II. III.

[鈴木、戸原、太田、對馬、赤池、森口、正田、唐沢、林、瀬、佐藤、荒木、山本、井上、日橋、伴野]



撮影:マルベル堂

鈴木美潮 (ナビゲーター) Mishio Suzuki, Navigator
読売新聞東京本社社長直属教育ネットワーク事務局専門委員。1989年、入社。政治部、文化部などに在籍。日本テレビ『donna』などに出演。2023年9月に2冊目の著書「スーツアクターの矜持」(集英社インターナショナル)を出版。22年11月、アニソン歌手・水木一郎生前最後の舞台の司会を務めた。

解説:長木誠司(音楽評論家)

J.S.バッハ:チェンバロ協奏曲 へ短調 BWV1056

聖トーマス教会のカントルとなったライブツィヒ時代のヨハン・ゼバスティアン・バッハ、(1685~1750)は、大学の学生を中心とした合奏団コレギウム・ムジクムに指揮者として招かれた。ツィンマーマンの経営するカフェなどで毎週演奏会を催したが、そのために書かれた作品に、14曲残されているチェンバロ協奏曲があった。それらは基本的に、過去に別の楽器の独奏用に書かれた協奏曲の調性を変え、また装飾を施した編曲作品である。

独奏チェンバロ用の作品は8曲残されているが、第5番に当たるへ短調の作品BWV1056は、ヴァイマル時代に書かれたト短調のヴァイオリン協奏曲が両端楽章の、二短調のオーボエ協奏曲が中間楽章の原曲と、それぞれ考えられている(失われた原曲は、本作品から復元されてBWV1056Rとなっている)。

第1楽章へ短調は、4分の2拍子。合間にソロの音型がちらりと挟まれるようなトゥッティで開始され、独奏が活躍する部分は3連符の急速で快活な音型で満たされている。

有名な**第2楽章**「ラルゴ」は、変イ長調で4分の4拍子。弦のピツィカートの上に情感豊かに紡がれる旋律は変口短調に転調し、また変イ長調に戻るが、最後はへ短調の終楽章の属和音上で半終止のように終わって継続感を残す。

第3楽章「プレスト」は、へ短調で8分の3拍子。独奏と弦楽合奏がポリフォニックに絡み合う劇的な終楽章である。

ウェーベルン:6つの歌 作品14

シェーンベルク、ベルクと並んで新ウィーン楽派の中心人物であるアントン・ウェーベルン(1883~1945)は、十二音技法を採用する以前、自由な無調による作曲時代にアンサンブル伴奏による歌曲をいくつも書いた。作品14の6曲は、1917年から21年まで、3期に分けてトラークルの6つの詩に作曲したものをまとめたものである。詩人は1914年に亡くなっているが、ウェーベルンはこの屈折した表現主義詩人を早くから評価していた。

伴奏には4人の器楽奏者が必要だが、4人全員がそろって演奏するのは第6曲のみ。書法は直前の作品13のオーケストラ歌曲からかなり飛躍して、室内楽による高度で繊細なポリフォニーを基本にしており、極度の集中力を要するアンサンブル技術が問われている。

声楽・器楽ともに跳躍も緩急変化も複雑だが、詩節の区分に応じ、内容に即した音楽の変化が施されているという点は古典的な歌曲と同様である。

ヘンツェ:「アポロとヒュアキントス」

ハンス・ヴェルナー・ヘンツェ(1926~2012)は、第二次世界大戦後のドイツを代表する作曲家として、交響曲、室内楽、独奏曲からバレエ曲、オペラまで精力的な創作活動を展開した。ことに、同時代の作曲家たちが見向きもしなかったオペラ創作で大きな足跡を残している。戦後早い時期に、それまでナチ支配下で禁じられていた十二音技法をいち早く習得して創作を開始したことで知られ、また中期には新左翼運動に共感してキューバの教壇に立ったこともある。

ギリシャ神話に基づいて1948年から49年にかけて作曲された「アポロとヒュアキントス」は、ヘンツェの同性愛者としての側面を示すもの。副題には「ゲオルク・トラークルの『公園で』による(中略)インプロヴィゼーション」と書かれているが、チェンバロを伴うネオバロック風の室内楽伴奏歌曲的でもあり、また交響詩的でも、さらにチェンバロ協奏曲風でもあるという、ジャンル横断的なものになっている。

ヒュアキントスは、少年愛が普通であったギリシャ神話のなかで有名な美男子として知られ、太陽神アポロンに愛されるが、嫉妬した西風の神ゼフィルスが、ふたりが投げた遊んでいた鉄輪をヒュアキントスに当て、それがもとで彼は死ぬ。

モーツァルトの同名のオペラでも知られるこの物語を、ヘンツェは十二音技法を用いつつ、抒情的な音画風のチェンバロ協奏曲にした。そして曲尾にトラークルの遺作となった詩集(1915年出版)『夢のなかのゼバスティアン』から『公園で』という詩をアルトに歌わせている。ヘンツェのなかには、妹との近親愛に悩んだ詩人への共感があっただろうか？

鈴木優人:「浄められし秋」

父・雅明を継いでバツハ・コレギウム・ジャパンを指揮者として率いながら、自身オルガニスト、チェンバロ奏者、ピアニストとして八面六臂の活動をする鈴木優人は、2016年に静岡音楽館AOIでのアンサンブル・ジェネシス(鈴木のもうひとつの活動母体)による「鈴木優人の『四季』」という演奏会用に、委嘱作品として「浄められし秋」を作曲し、初演した。この団体のために書かれた鈴木作品としては2曲目となる。

ここでも歌われるのは同名のトラークルの晩年(と言っても20代後半)の詩で、これまでも少なからぬ作曲家たちが付曲している(なかではヴィクトル・ウルマンのものが比較的有名)。

十二音列的な旋律を描くソプラノ歌唱パートに対し、弦楽合奏はリズム・ユニゾンながらクラスター的な音響でそれを支え、コントラバス、ピアノとヴィブラフォンは、それらに対位的・対比的に絡まりながら進んでいく。

フィリップ・グラス:チェンバロ協奏曲

フィリップ・グラス(1937~)は、ダリウス・ミヨーやナディア・ブーランジェに学んだあと、シター演奏者のラヴィ・シャンカールの影響を受け、またステューヴ・ライヒにも影響されて、彼とともに反復音型を特徴とするいわゆる「ミニマル・ミュージック」の旗手となった。自身のアンサンブルでの活動とともに、数多くのオペラ、器楽曲、協奏曲、交響曲、演劇・映画音楽、合唱曲など、幅広く創作活動を展開している。

チェンバロ協奏曲は、2002年にノースウェスト室内管弦楽団のために委嘱されて作曲した。グラスはしばらく前からチェンバロに関心を寄せており、この楽器が古楽合奏よりも現代の室内オーケストラのなかでの方が「力強くふくよかな響き」を作ることが可能で、「ハンサムなパートナー」になるのではないかという感触を得ており、委嘱に即座に反応した。

曲は古典的な3楽章からなっており、全体にオーケストラとの緊密な相互関係が主眼となっている。**第1楽章**は、4分の4拍子の序奏に始まり、3拍子に転じて、まさにグラス風のアルペッジョと音階が重畳されていく。**第2楽章**は、4分の3拍子から4拍子へ移り変わり、また戻りつつ、ソロ単独の動きが比較的顕著な穏やかな楽章。**第3楽章**は、8分の7拍子で、ソロとオーケストラがノリノリで跋扈(ばっこ)する華麗なフィナーレとなる。

歌詞対訳

訳: 日名淳裕(成城大学准教授)

WEBERN: 6 Songs op. 14

Die Sonne

Täglich kommt die gelbe Sonne über den Hügel.
Schön ist der Wald, das dunkle Tier,
Der Mensch; Jäger oder Hirt.

Rötlich steigt im grünen Weiher der Fisch.
Unter dem runden Himmel
Fährt der Fischer leise im blauen Kahn.

Langsam reift die Traube, das Korn.
Wenn sich stille der Tag neigt,
Ist ein Gutes und Böses bereitet.

Wenn es Nacht wird,
Hebt der Wanderer leise die schweren Lider;
Sonne aus finsterner Schlucht bricht.

Abendland

Else Lasker-Schüler in Verehrung

1

Mond, als träte ein Totes
Aus blauer Höhle,
Und es fallen der Blüten
Viele über den Felsenpfad.
Silbern weint ein Krankes
Am Abendweiher,
Auf schwarzem Kahn
Hinüberstarben Liebende.

Oder es läuten die Schritte
Elis' durch den Hain
Den hyazinthenen
Wieder verhallend unter Eichen.
O des Knaben Gestalt
Geformt aus kristallinen Tränen,
Nächtigen Schatten.
Zackige Blitze erhellen die Schläfe
Die immerkühle,
Wenn am grünenden Hügel
Frühlingsgewitter ertönt.

2

So leise sind die grünen Wälder
Unserer Heimat,
Die kristalline Woge
Hinsterbend an verfallner Mauer
Und wir haben im Schlaf geweint;
Wandern mit zögernden Schritten
An der dornigen Hecke hin
Singende im Abendsommer,
In heiliger Ruh
Des fern verstrahlenden Weinbergs;
Schatten nun im kühlen Schoß
Der Nacht, trauernde Adler.
So leise schließt ein mondener Strahl
Die purpurnen Male der Schwermut.

ウェーベルン:6つの歌作品14

太陽

毎日やってくる 黄色い太陽が 丘の上に。
森が、暗色の動物が美しい、
人間が。狩人もしくは牧人が。

赤みをおびて浮かんでくる 緑色の沼に 魚が。
丸い空の下で
音もなく進んでゆく 漁師が 青い小舟に乗って。

ゆっくりと実る 葡萄が、穀物が。
一日が静かに終わりに近づくならば、
善いものも悪いものも用意されてあるのだ。

夜になれば、
さすらう男がそっと重い臉をあげる。
太陽が真つ暗な峡谷からあらわれる。

西洋

エルゼ・ラスカー=シュラーに敬意をこめて

1

月、あたかも命のないものが
青い穴から歩み出るかのようだ、
そして 花々の多くが
岩の小道の上に落ちる。
夕方の沼のほとりで 病んだものが
銀色の涙を流す、
黒い小舟に乗った
恋人たちは死んで行った。

あるいは エーリスの
森をぬける足どりが響いている
ヒヤシンスの森をぬけて
檜の木々の下でふたたび弱まってゆく。
ああ 少年の姿よ
水晶の涙から、夜のような影から
形づくられた。
棘のような稲光がそのこめかみを照らす
いつも冷たいこめかみを、
若葉が広がる緑の丘に
春の嵐が鳴り響くころ。

2

とても静かなのだ 私たちの故郷にある
緑の森は、
水晶の大波は
朽ちた壁のもとで死んでゆく
そして 私たちは眠りながら涙を流した。
ためらうような足どりで
次の垣に沿って 夕暮れの夏に
散策する 歌う者たち、
遠くで光を放つ 葡萄畑の丘にある
神聖な休息のうちに。
今は夜の冷たい胎につつまれた影、
悲嘆にくれる 鷲たち。
とても静かに 一筋の月の光線が
憂鬱という深紅の傷跡を ふさぐ。

3

Ihr großen Städte
 Steinern aufgebaut
 In der Ebene!
 So sprachlos folgt
 Der Heimatlose
 Mit dunkler Stirne dem Wind,
 Kahlen Bäumen am Hügel.
 Ihr weithin dämmernden Ströme!
 Gewaltig ängstet
 Schaurige Abendröte
 Im Sturmgewölk.
 Ihr sterbenden Völker!
 Bleiche Woge
 Zerschellend am Strande der Nacht,
 Fallende Sterne.

Nachts

Die Bläue meiner Augen ist erloschen in dieser Nacht,
 Das rote Gold meines Herzens. O! wie stille brannte
 das Licht.
 Dein blauer Mantel umfing den Sinkenden;
 Dein roter Mund besiegelte des Freundes Umnachtung.

Gesang einer gefangenen Amsel
 Für Ludwig von Ficker

Dunkler Odem im grünen Gezweig.
 Blaue Blümchen umschweben das Antlitz
 Des Einsamen, den goldnen Schritt
 Ersterbend unter dem Ölbaum.
 Aufflattert mit trunknem Flügel die Nacht.
 So leise blutet Demut,
 Tau, der langsam tropft vom blühenden Dorn.
 Strahlender Arme Erbarmen
 Umfängt ein brechendes Herz.

3

君たち 大きな街よ
 平地に
 石で積み上げられたものよ!
 まったく口をつくぐんで
 故郷を失った男が
 暗い顔をして 風に 従う、
 丘にある葉の落ちた木々に。
 君たち 遠くまで暮れてゆく川の流れよ!
 途方もなく不安にするのだ
 嵐の雲の中にある
 恐ろしい夕焼けが。
 君たち 死にゆく民族よ!
 夜の岸辺に砕け散る
 青ざめた波よ、
 落ちてゆく星よ。

夜に

私の瞳の青色がこの夜に消えた、私の心の
 まばゆい黄金が。ああ!なんと静かに光が
 燃えたことか。
 君の青いマントが沈んでゆく男を包みこんだ。
 君の赤い口が友人の狂気に封をした。

捕えられた黒歌鳥の歌
 ルートヴィヒ・フォン・フィッカーのために

緑の枝の中にひそむ暗い呼吸。
 小さな青い花々が孤独な男の
 顔のまわりを漂っている、オリーブの木の下で
 息絶えようとする 黄金の歩みのまわりを。
 羽ばたき舞い上がる 酔っぱらった翼の夜が。
 ひっそりと 血を流している 恭順が、
 ゆっくりと 花咲く茨から滴る 露が。
 光を放つ腕のもつ憐れみが
 ひとつの折れかかった心を抱きしめている。

HENZE: Apollo et Hyazinthus

Im Park

Wieder wandelnd im alten Park,
 O! Stille gelb und roter Blumen.
 Ihr auch trauert, ihr sanften Götter,
 Und das herbstliche Gold der Ulme.
 Reglos ragt am bläulichen Weiher
 Das Rohr, verstummt am Abend die Drossel.
 O! dann neige auch du die Stirne
 Vor der Ahnen verfallenem Marmor.

MASATO SUZUKI: Verkklärter Herbst

Verkklärter Herbst

Gewaltig endet so das Jahr
 Mit goldnem Wein und Frucht der Gärten.
 Rund schweigen Wälder wunderbar
 Und sind des Einsamen Gefährten.

Da sagt der Landmann: Es ist gut.
 Ihr Abendglocken lang und leise
 Gebt noch zum Ende frohen Mut.
 Ein Vogelzug grüßt auf der Reise.

Es ist der Liebe milde Zeit.
 Im Kahn den blauen Fluß hinunter
 Wie schön sich Bild an Bildchen reiht –
 Das geht in Ruh und Schweigen unter.

ヘンツェ:「アポロとヒュアキントス」

公園で

ふたたび古い公園をあてもなくさまよう、
 ああ!黄と赤の花々がつくる静寂よ。
 穏やかな神々よ、君らもまた悲嘆にくれているのだ、
 そして 楡という秋の黄金も。
 身じろぎもせず突き出た 青い沼の
 葦、夕方には鵜の囀りがやむ。
 ああ!では君もまたその額を下げるがよい
 父祖らの朽ちた大理石の前では。

鈴木優人:「浄められし秋」

浄められし秋

こうして力強く終わりを迎えるのだ その年は
 黄金の葡萄酒と庭になる果実とともに。
 あたりの森は 驚くほどにひそまりかえって
 孤独な男の道づれとなっている。

そこで農夫が口にす、それで良いのだと。
 君たち 長く静かな夕べの鐘は、
 終わりにな お 朗らかな気分を与えてくれる。
 旅路にある渡り鳥の群れがこちらに姿をみせる。

それは愛の穏やかな時間である。
 青い川を下る小舟に乗れば
 なんと美しく景色が小さな景色へと連なることか、
 それは安らぎと沈黙のうちに沈んでゆくのだ。

日名淳裕 Atsuhiko Hina

成城大学法学部准教授。専攻はドイツ語抒情詩、戦後オーストリア文学。業績に『モルブス・アウストリアクス オーストリア文学をめぐる16章』(共著、法政大学出版局、2023年)、「ゲオルク・トラークル 「最後の詩」における祖国の死と故郷の再生」(論文、日本独文学会研究叢書141、2020年)ほか。



鈴木優人 プロデュース、指揮、チェンバロ、ピアノ(読響指揮者/クリエイティブ・パートナー)
Masato Suzuki, Producer, Conductor, Harpsichord, Piano

マルチな才能で新時代を切り拓く気鋭。2020年4月から読響指揮者/クリエイティブ・パートナー。指揮者、鍵盤楽器奏者として国内外で活躍する。バッハ・コレギウム・ジャパン首席指揮者、調布国際音楽祭エグゼクティブ・プロデューサー。関西フィル首席客演指揮者。これまでの《アンサンブル・シリーズ》では、ケージ作品とヴィヴァルディ「四季」を組み合わせたプログラムや、シェーンベルク「月に憑かれたピエロ」、ブーレーズ「ル・マルトー・サン・メートル」などを演奏し、高い評価を得ている。芸術選奨文部科学大臣新人賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞ほか受賞多数。



松井亜希 ソプラノ
Aki Matsui, Soprano

しなやかで透明度の高い歌声を持つソプラノ。バッハ・コレギウム・ジャパンのメンバーとして国内外の公演や録音に参加。ブレーメン音楽祭やライブツィヒ・バッハ音楽祭など欧州各地でソリストを務めて好評を得る。2020年ケルンでの「ヨハネ受難曲」が絶賛されたほか、東京オペラシティ「B→C」や日本現代音楽協会のリゲティ没後10年記念公演に出演するなど、幅広いレパートリーで活躍している。



藤木大地 カウンターテナー
Daichi Fujiki, Countertenor

日本が世界に誇るカウンターテナー。2013年ボローニャ歌劇場にて欧州デビュー。17年にウィーン国立歌劇場に鮮烈なデビューを果たし、一躍世界から注目を浴びた。20年バッハ・コレギウム・ジャパン「リナルド」、21年新国立劇場「スーパーエンジェル」などの主役を務め話題を呼んだ。古典から現代まで幅広いレパートリーで活躍し、国内主要楽団と共演するほか、各地でリサイタルが開催され好評を博す。



戸原直
ヴァイオリン
(コンサートマスター)
Nao Tohara,
Concertmaster



對馬哲男
ヴァイオリン(次席)
Tetsuo Tsushima,
Violin



赤池瑞枝
ヴァイオリン
Mizue Akaike,
Violin



太田博子
ヴァイオリン
Hiroko Ota,
Violin



寺井馨
ヴァイオリン
Kaori Terai,
Violin



森口恭子
ヴィオラ
Kyoko Moriguchi,
Viola



正田響子
ヴィオラ
Kyoko Shoda,
Viola



唐沢安岐奈
チェロ
Akina Karasawa,
Cello



林一公
チェロ
Kazumasa Hayashi,
Cello



瀬泰幸
コントラバス
Yasuyuki Se,
Double Bass



佐藤友美
フルート
Yumi Sato,
Flute



荒木奏美
オーボエ(首席)
Kanami Araki,
Oboe



山本楓
オーボエ
Kaede Yamamoto,
Oboe



金子平
クラリネット(首席)
Taira Kaneko,
Clarinet



芳賀史徳
クラリネット
Fuminori Haga,
Clarinet



井上俊次
ファゴット(首席)
Tashitsugu Inoue,
Bassoon



日橋辰朗
ホルン(首席)
Tatsuo Nippashi,
Horn



伴野涼介
ホルン
Ryosuke Tomono,
Horn



金子泰士
打楽器
Yasushi Kaneko,
Percussion